



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩

事務局 〒761-2103

香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1

綾川町国民健康保険陶病院気付

副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛

Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795

E-mail oharamasaki@gmail.com

## ★1 第15回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会の開催報告

三豊総合病院 地域医療部 中津守人

H27. 11. 21 (土)～H27. 11. 22 (日)、香川プライマリ・ケア研究会、日本プライマリ・ケア連合学会四国支部、四国地域医学研究会の学術集会・合同集会を香川県高松市で開催しました。今回は、患者のあらゆる健康上の問題や疾病に対し、総合的、継続的、そして全人的に対応できる人材の育成について考える機会になればと考え、「プライマリ・ケアにおける人材育成、生涯研修」をメインテーマとしました。

1日目の一般演題では、歯科衛生士への訪問口腔ケア研修、薬剤師の在宅医療に関する研修、歯科医師会による8020地域サポーター養成、訪問看護師の研修など、在宅サービスにかかわる人材育成に関する報告がありました。一般演題の後、プライマリ・ケア連合学会理事長である丸山泉先生から、「医師会活動がなぜ我々にとって大切であるか」という題で、ビデオ講演がありました。

特別講演は、大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座特任教授、大阪医科大学医学部附属病院総合診療科科長 鈴木富雄先生を講師にお迎えし、「学び喜び育てられ医療人にとっての教育とは」という



演題でお話していただきました。先生の舞鶴市民病院での研修医時代の話、名古屋大学や大阪医科大学での教育などを通して、教育において何が大切であるかをお話していただきました。研修医への指導方法など非常に参考になりました。



2日目は、朝8:30から原穂高先生を座長に、ポートフォリオの発表会を行いました。ポートフォリオの発表は、総合診療専門医の専攻医研修で必須となる予定で、非常に参考になりました。次に、医療法人松藤会入江病院副院長の入江聡五郎先生をお迎えして、臨床推論セミナーを行いました。症例は、繰り返す両下肢の筋力低下が主訴でした。臨床推論には、学生8人、初期研修医3名の方に参加していただき、横井先生の司会のもと、入江先生からコメントをいただきながら進められました。

診断は、甲状腺機能亢進症に併発した**低K血症**による周期性四肢麻痺でしたが、非常に白熱した議論となりました。改めてバイタルサインの重要性について考えさせられました。その後の一般演題では、初期研修医が行う医学部低学年への学習会、医学生教育における地域医療医育成への取り組み、家庭医療専門研修についてなど、医師における人材育成についての発表がありました。

今回の大会の参加者は183名で、一般演題が28演題あり、そのうち、医学生からの発表が6演題でした。開催県である香川県の学生の発表がなかったのが残念でした。(臨床推論セミナーには積極的に参加していただきました。)次回は期待したいと思います。



H29 年からは総合診療専門医制度も始まります。学生や、若い医師が興味を持てるような大会になればと考えております。

会員の皆様のご協力で、無事、大会を終了することができました。また、事務局を担当していただいた香川県医師会事務の長尾さん、ありがとうございました。この場をお借りして、皆様に、深く感謝いたします。

## ★2 第27回高知臨床推論ケースカンファレンス ～総合診療医ドクターG in 高知～

佐野内科リハビリテーションクリニック内 高知総合診療・病態診断研究会事務局 佐野 良仁

本研修会を10月10日(土)14時～17時に高知赤十字病院・本館3階 大会議室で開催しました。今回の特別講演には、諏訪中央病院 内科総合診療部・院長補佐・山中克郎(やまなかかつお)先生をお招きしました。昨年12月に、「地域医療」に取り組むため大学の教授を辞して、諏訪中央病院に移ったそうです。「地域医療」や「地域での教育」の活動を、八ヶ岳山麓の病院で実践活動されています。

当日、38名の参加者が来場し、山中先生の実践講義は、『**神経診察、その素晴らしき世界**』で、身体診察の取り方を講義と実演下さいました。主に学生・研修医向けでしたが、臨床医にも大変参考になりました。

日常診療の中で、神経診察の全てを網羅して確認すると、30分あっても足りない、1時間も2時間もかかってしまう可能性があります。それは急を要する場合の臨床現場では現実的ではありません。『**最も大切なことは、問診から診察すべき異常な神経学的所見を推定すること**』だと、最初に説明されました。

これは、“検査結果から診断をしようとしたときに見逃してしまうことがある”ということと同じように、身体所見もまた、異常な神経学的所見を推定することなく、所見だけで判断しようとすると、軽微な所見を見逃すことがある、ということを強調されていました。



講義・実演内容をすべてここに記載することはできませんので、概要だけの紹介になりますが、まず、**意識レベルの評価**、そして**12脳神経の診察の診かた**。次に、**小脳機能検査の仕方**、**歩行の診かた**と**異常所見の実演**、**運動神経の診かた**、**反射の診かた**、**感覚障害の診かた**、と、色々を分かりやすく実演してくださいました。後のアンケートからも、研修医や学生のみならず、参加された臨床医の先生方からも大変分かりやすく日常診療にすぐに役立つ方法を教えていただいた、と非常に好評でした。

**痛みの“OPQRST”**

**O: Onset(発症様式)**  
昨日から、徐々に痛くなり出して、強くなっていった。トイレに行くのに歩いていくのが徐々に辛くなっていく形で発症した。

**P: Palliative/Provocative(増悪・寛解因子)**  
歩こうと体重を乗せたら痛い。ベッドの寝起きの時も痛い。痛いところを押すと辛い。横になってジッとしていいたらマシ。

**Q: Quality(症状の性質・ひどさ)**  
歩く時にもとても痛いです。手すりを伝って歩いてトイレまで行く。座った状態や横になる時の体の動きがとても痛いです。動きたくない。

**R: Region/Radiation(場所・放散の部位)**  
右の臀部の内側の痛み。歩行時や寝起き時も同じ部位の痛み。放散痛はなし。

**S: Associated Symptom(随伴症状)**  
発熱  
他は特になし。(発赤、腫脹、発疹、脱力感など認めない。)

**T: Time course(時間経過)**  
1日前から。最初は歩いた時の痛みだった。そのうち、寝起きの時の動きが出た時も痛みが強くなっていった。

その後、私から1症例提示して、ケースカンファレンスを行いました。60歳代後半女性、主訴は吐き気と腰痛です。詳細は割愛しますが、痛みの部位、性状、経過、随伴症状などから、『**化膿性仙腸関節炎**』を疑う症例でした。仙腸関節の診察はなじみがないかもしれませんが、骨盤環に徒手的に外力を掛けると非常に仙腸関節部を痛がり、そして、上後腸骨棘から辿って、仙腸関節部を触診して圧迫すると非常に痛みが強く、診断に至った症例でした。

後日、血液培養にて、*Streptococcus agalactiae* (B群溶連菌)が検出され、基幹病院に即・連絡しました。先方でもやはり、同じものが検出されたとのことでした。

今回のケースカンファレンスにて、あまり聞き慣れない疾患ですが、症状経過と痛みの部位・痛みの出方に着目すれば、痛みの原因となる部分がどこか、その原因が何か、ある程度推察することが出来ることを学んでいただきました。

今回のケースカンファレンスにて、あまり聞き慣れない疾患ですが、症状経過と痛みの部位・痛みの出方に着目すれば、痛みの原因となる部分がどこか、その原因が何か、ある程度推察することが出来ることを学んでいただきました。



この様子は、日経メディカルオンラインの山中克郎先生のコラム、『八ヶ岳から吹く風21』に掲載されています。ご興味のある方は、是非ご覧下さい。

### ★3 愛媛県研究会における最近の活動

#### 家庭医療ってなんだ？

日時: **12月5日(土)**  
13:00~17:00

場所: 愛媛大学医学部 基礎第1講義室

内容: 最近話題の「家庭医療(Family Medicine)」。聞いたことあるけどよく分からない。そんな風に思っている方を集めるのではないですが、医師6年目までの先生方がそんな疑問を解きかけとなるWorkshopを提供してくれます。少しでも興味があればぜひご参加ください。



四国ブロック副支部長(愛媛) 川本龍一

最新的话题としては、12月の中旬のトピックするになりますが、「家庭医療ってなんだ」の集会を12月5日に行います。学生による若い力のパワーを期待しています。

愛媛大学医学部には、以前から学生主催のClinical Learning Club Ehimeというのがあります。このサークルの特徴は、学生自らが勉強会を主催し、企画・運営する団体です。

今まで、自主的に1年生から6年生まで参加されているのが素晴らしく、定期的に勉強会やワークショップを開催しています。

今回は、家庭医療をテーマに取り上げるということで地域医療学講座も共催させていただきました。今回の講師の中には、本講座で学生時代に勉強をされた先生も含まれており、その成長ぶりに期待しています。

\*\*\*来住 知美先生\*\*\* 長谷川 陽一先生 \*\*\*年森 慎一先生\*\*\* 山内 優輔先生

大塚水産 総合診療センター 愛媛大学医学部地域医療学講座 鳥取 アパロピーリニックス岡山 岡山県立病院センター

対象: 家庭医療に興味をもつすべての方  
定員: 30名  
参加費: 無料 \*神戸市、山内市は3000円程度で研修費を予定しています。  
お申込: 下記のアドレスもしくはQRコードより必要事項を記入して送信してください。一週間以内にご返信がない場合は下記の連絡先アドレスまでお問い合わせください。  
<http://goo.gl/9vms0n00202016>

お問い合わせ: fm2015125@gmail.com (医学科4回生田中いづみ)  
主催: 愛媛大学医学部CLC (Clinical Learning Club Ehime) \*CLCは、愛媛大学医学生、学生主体の勉強会を企画・運営する団体です。  
共催: 日本プライマリ・ケア連合学会学生・研修医部四国支部 愛媛大学医学部地域医療学講座 80 大学行脚プロジェクト

申込締切: 11月27日(木) 17時まで (20名 30名程度)

### ★4 Facebook グループ【日本PC連合学会 四国若手とベテランの集い】

愛媛大学医学部地域医療学講座 専攻医 長谷川 陽一

家庭医療専門研修プログラムが2013年からVer1.0からVer2.0に改訂されました。全国的に家庭医についての研修や専門医資格の整備がなされている状況で四国でも多くのプログラムが改訂され募集をされていますが、四国の実状はどうなっているのでしょうか。

今回、四国で家庭医療専門医の後期研修を行っているプログラムの責任者の方に現在の四国の後期研修の現状について簡単なアンケート調査を行いました。結果は現在確認できる範囲で家庭医療研修を行っている後期研修医は8名でした。「四国四県で8名は少なくもっと増えてほしい」という感想を持ちました。四国の後期研修を盛り上げるために、2015年3月に後期研修医ポートフォリオ発表会を愛媛大学で開催しました。

また、プライマリ・ケアに関する情報共有を目的として【日本プライマリ・ケア連合学会 四国若手とベテランの集い】という名前のFacebookグループを作成しました。これから四国内でのイベントや勉強会等の情報共有の一助となればと考えていますので、ぜひとも、ご参加ください(参加は承認制ですが、誰でも可能となっております)。



## ★5 第6回 SAKURA-GM カンファレンス

徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野（徳島）谷 憲治

2015年10月24日、第6回 SAKURA-GM カンファレンスが徳島大学蔵本キャンパスの総合診療医学分野で開催されました。このカンファレンスは総合診療医学分野の支援のもと、徳島大学の医学生サークル「地域医療研究会」のメンバーが主催して実施しています。

名前の言われは、S（しこく）、A（あわ）、K U R A（くらもと）～GM（General Medicine）となっています。徳島大学医学部のキャンパスは徳島市蔵本町にあります。かつて本地域には、比較的裕福な家や蔵が多くあったことに由来します。



第6回目の今回は、26名が参加し、神戸中央市民病院総合診療科副医長の金森真紀先生を講師としてお招きすることができました。そのご講演の中で、金森先生のこれまでの女性医師として、妻として、そして母としてのキャリアを紹介してもらいながら、医学生の持つ将来に関する様々な不安や疑問についての的確にお答えいただきました。

## ★6 元日本プライマリ・ケア学会会長・小松眞先生が旭日双光賞を受賞

四国ブロック支部長（徳島）板東 浩

我が国でプライマリ・ケア医学や総合診療の発展、ならびに、東京都医師会などにおいて多大な貢献をされた先生が、小松眞先生であり、広く知られています。筆者自身も、小松先生からご指導を賜わり、アジア諸国における医療視察や医療レポートの発信など国際交流関係、ならびに日本P C学会における広報やインターネット関連の発展などに関わらせていただくことができました。

四国支部に対しても、長年にわたり、ご多忙の中わざわざご参加いただき、そのたびに、支部に対して援助を下さるなど、物心ともに後輩を育ててくださっています。筆者は、小松先生のマネジメントを「小松イズム」と名付け、日本内科学会における総合内科専門医会においても、若い世代の医師に対して、「小松イズム」の重要性を説明し啓発させていただいてきました。



このたび、大きなニュースが。2015年11月、小松眞先生が旭日双光賞を受賞されました。徳島大学医学部同窓会である青藍会においても、このニュースが速報で伝えられましたので、下記に抜粋します。

「平成27(2015)年11月、秋の叙勲に関する新聞報道がありました。青藍会東京支部・名誉支部長である小松眞先生が旭日双光賞を受賞されました。長年にわたり地域医療へのご尽力が認められ、我々青藍会会員としても大変嬉しく存じます。同支部・上田茂先生から連絡を受け、速報でご紹介します。

これに関連して連絡があります。来年の東京支部総会・講演会の開催日は平成28年3月12日（土）と予定されていました。ところが、東京都医師会が小松先生の叙勲の祝賀会を急遽決定し、その日程が同日と重なってしまったのです。

そこで、講演会講師の久枝先生や露口会長、苛原医学部長とも調整の上、4月16日（土）への変更が決まりました。詳細は後日に連絡となります。取り急ぎ、小松先生の秋の叙勲、および東京支部総会の日程の変更について、御連絡を致します。」

なお、写真は、2015.11.21 本支部大会（高松）で、小松先生がご挨拶されているときのものです。